

夏草新人賞

染谷 秀雄

青邨先生から戴いた半切の軸装がある。昭和五十六年第二十七回夏草新人賞を受賞したときから、かれこれ四十年も前になる。新人賞はこの年四人。賞状とともに青邨先生が半切に揮毫してくださり、表装代相当のお金が出る。これで各自が好きに表装する仕組みだ。夏草では先生が何の句がよいか事前に聞いてくださるので自分かこれと思った句を希望する。好きな句がたくさんあるので迷った。

夏風先生率いる会社の俳句部有志で東北吟行を行った際、初めて乗った夜行寝台列車で朝方平泉に到着。青邨先生の〈人も旅人〉の句碑、中尊寺金色堂等を拝観した。東北へのあこがれもあり「銀夕立」のことばもきれいで好きなので、〈光堂かの森にあり銀夕立〉をお願いした。

俳人協会自註現代俳句シリーズ山口青邨集によれば「盛岡に向う車中、平泉あたり、毛越寺前、中尊寺田圃にさしかかる、折柄夕立、銀の矢、むこうの黒い森の中には金色堂。銀夕立は私の造語。」とある。

後日四人で青邨先生のお宅にお礼のあいさつに伺った。四月十六日の夜のことだった。先生の家の子燈があたたかかった。

六月になったので掲句を架けてみた。軸装に先生なつの句が輝いた。年に一度の風入れをしながらこの句を眺める。しかし、自分の歳を思うと、いまのうちから先生の貴重な書はしかるべきところに預けて将来のために有効に使っていただく方が適切であろうと俳人協会に寄贈することにした。

そしていつか俳句文学館で「山口青邨展」を開催したときにまた「銀夕立」の句に再会できればと思っている。